

令和7年度

運営に関する計画



(最終評価)

大阪市立井高野小学校

令和8年2月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校は、過去の困難な状況を踏まえ、授業の確立と規範意識の向上に努めてきた結果、現在はどの学級の児童も概ね落ち着いて学習に取り組んだり、学校生活を過ごしたりすることができている。また、子どもとの関わりや保護者との連携にも丁寧に取り組んでいるところである。

しかしながら、基本的な生活習慣の確立が難しい、自分の感情をうまくコントロールできない、自己肯定感が低いなどといった個々に課題を有する児童もいる。また、学力・体力については課題のある児童も多い。

学校での豊かな関わりの中で、社会性や自尊感情を育み、学習や運動への意欲をいっそう高めることを通して、学力や体力のさらなる向上を目指す必要がある。また、子どもたちが主体的に活動する学習展開の工夫と場の充実を図りたい。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。
- 令和7年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を1%以下にする。
- 令和7年度末の校内調査において、不登校児童の改善の割合を20%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を50%以上にする。
- 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も3年間で0.1ポイント向上させる。
- 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を55%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 学習者用端末を活用した家庭学習を週1回以上、継続して実施する。
- 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準2を満たす教員の割合を85%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を85%以上にする。
- 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。
- 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を昨年度より向上させる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を昨年度より向上させる。
- 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.05ポイント向上させる。
- 小学校学力経年調査における「理科の学習は好きですか」に対して肯定的に回答する児童の割合を昨年度より向上させる。
- 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を昨年度より向上させる。
- 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を昨年度より向上させる。

【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く〕
- 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準2を満たす教員の割合を昨年度より向上させる。

3 本年度の自己評価結果の総括

今年度、よりよい教育活動の実現を目指して教職員で検討を重ね、連携を図りながら、年度目標の達成に向けて取り組んできた。

【安心・安全な教育の推進】

児童が安心して安全に学校生活を過ごすことができるよう、「心の天気」の一日一回の入力、相談申告機能の周知等により、児童の実態把握に努めてきた。また、生活指導部を核として全教職員で情報共有や規律やきまりの確認を行い、同じ方向性をもって指導にあたってきたことで、児童は概ね落ち着いて学校生活を過ごすことができた。

本校の課題として、児童の自己肯定感の向上を目指して、道徳科や人権教育、生活科や総合的な学習の時間での様々な体験活動や協働的な学習、場を捉えた指導などあらゆる場での指導や取組により、小学校学力経年調査や校内アンケートにおける「自分には、よいところがあると思いますか。」の質問に対する肯定的回答の割合は、昨年度より向上させることができた。次年度においても、自己肯定感、自己有用感の向上に向けて、家庭への啓発も含め更に取り組むを推進していく。また、不登校や不登校傾向にある児童や教室に入りづらい児童、気持ちがなかなか落ち着かない児童へのアプローチについては、今後、関係機関との連携も図りながら取り組んでいきたい。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

今年度の研究教科である生活科・総合的な学習の時間における話し合い活動を、他教科でも取り入れることが増え、小学校学力経年調査や校内アンケートにおける「学級の友達との話し合い活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることはできていますか。」における肯定的回答の割合は、昨年度より向上し年度目標を達成することができた。外国語活動や理科の学習にも意欲的に取り組む姿が見られ、どの子も真面目に学習を進める様子が見られた。

一方で、何のために、どうして話し合うのかといった話し合いの目的や意図を自覚できない児童が見られたことを課題として捉え、次年度は、児童が話し合いの目的や意図などについてより自覚できるような手立てを検討していく必要がある。

また、丁寧な手洗いに関する保健指導や、食に関する指導について、児童の委員会活動や学級活動、保健だよりや給食・食育だよりの発行、手洗い強調週間や給食週間の設定など継続した指導により、児童の意識の向上が図られた。健康的な生活の良さについて児童の意識が持続するよう、継続して取り組む必要がある。

【学びを支える教育環境の充実】

一人一台学習者用端末の活用について、毎月の活用状況について教職員で確認するとともに、効果的な活用の仕方や学習に役立つ機能などについて教員への ICT 研修を行い、「授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50%以上にする」という年度目標について、端末利用率は 70%と達成することができた。次年度以降も、授業での効果的な活用について模索していく。また、研究教科である生活科・総合的な学習の時間においては大学教授に年間を通して指導助言いただいたり、特別支援教育などの教員研修を実施したりして、教員の指導力向上を図ってきた。

今年度も、登下校の見守りや読み聞かせ、生活科や総合的な学習の時間における見学やゲストティーチャーなどでの地域との連携、学校行事への支援など地域とも連携を図ることができた。また、その様子について、ホームページなどで積極的に発信することにより保護者の学校への関心を高めるようにしてきた。今後も、関係機関と連携し、児童が安心・安全に学校生活を過ごすことができるようにしていく。

大阪市立井高野小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した B: 目標どおり達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【安全・安心な教育の推進】</p> <p>○ 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を85%以上にする。</p> <p>○ 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。</p> <p>○ 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。</p> <p>○ 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を昨年度より向上させる。</p>	B

年度目標の達成に向けた取り組み内容、取り組みの進捗状況を測る指標	達成状況
<p>取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>児童がSOSを発信しやすい環境と、教職員が児童の状況を多面的に把握し、一人一人に寄り添った支援を行える環境の実現をめざす。</p> <p>指標 「学校に行くのは楽しい」子どもの割合を90%以上にする。</p>	A
<p>取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>児童一人一人に寄り添った不登校要因への対応を行い、不登校児童の学習機会の確保に向けた取り組みを行う。</p> <p>指標 不登校児童、あるいは不登校気味な児童に対し、保護者や本人との電話やGoogle Classroomでのやりとり、家庭学習の課題のチェックなどを週1回以上行う。</p>	B
<p>取組内容③【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>子どもが災害や不審者などに備えて、自らを安全に確保するための行動ができるようにする。</p> <p>指標 学期に1回以上防災・防犯訓練を実施し、「自分の命は自分で守ろうと思う」子どもの割合を95%以上にする。</p>	A
<p>取組内容④【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>児童の実態に応じた道徳や人権教育の指導計画をもとに実践する。</p> <p>指標 年間指導計画をもとに道徳の指導や人権教育を実践し、「自分にはよいところがあると思う」子どもの割合を昨年度(77%)より向上させる。</p>	B
<p>取組内容⑤【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>企業や団体等の協力による職場見学や出前授業などの体験学習を計画・実施する。</p> <p>指標 「社会見学やゲストティーチャーによる授業などの体験学習に進んで取り組む」子どもの割合を90%以上にする。</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

<p>① 心の天気や月に一度のスクリーニング会議等で児童の状況を把握し、全教職員で共有してきたことにより、児童が安心して過ごせる環境づくりを心がけた。</p> <p>② 保護者、児童本人と相談の上、オンライン学習やデジタルでの課題のやり取り、家庭訪問などを行うことができているが、保護者との連携が難しい家庭もある。</p> <p>③ 計画的に防災、防犯訓練を実施し、命の大切さについて学んでいる。また、学習した防災意識を全校に発信する取り組みも行った。</p> <p>④ 年間指導計画をもとに道徳の学習や人権教育を実践してきた。また、機会をとらえて友達や自分のよさについて考えてきた。</p> <p>⑤ 生活科、総合的な学習の時間の学習の中で、ゲストティーチャーや見学などの体験学習を行ってきたが、児童の学習意欲とは結びついていない。</p>

後期への改善点

<p>① 心の天気の入力を習慣化させる。雨や雷などの場合、理由をたずねたり様子を見守ったりする。</p> <p>② 保護者との連携がとりづらい家庭への手立てが必要。</p> <p>③ 訓練の事後指導もていねいに行う。</p> <p>④ 自分は大切な存在であることを様々な機会を通して高めていく。</p> <p>⑤ 体験学習の内容を確かめ、生活、総合的な学習の時間の学習の中で、効果的な体験学習を進める。また、児童の満足感につながる工夫をしていく。</p>

大阪市立井高野小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおり達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【未来を切り拓く学力・体力の向上】 全市共通目標(小学校) ○ 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を昨年度より向上させる。 ○ 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.05ポイント向上させる。 ○ 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を昨年度より向上させる。 ○ 小学校学力経年調査における「外国語(英語)の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を昨年度より向上させる。 ○ 小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を昨年度より向上させる。	B

年度目標の達成に向けた取り組み内容、取り組みの進捗状況を測る指標	達成状況
取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 主体的・対話的な学びを実現し、個別最適化の学習や協同的な学習の効果的な活用を考え、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の育成を図る。 指標 「学級の友達との話し合い活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」子どもの割合を80%以上にする。	B
取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 外国語の言語活動を通じて、コミュニケーション能力の育成を図る。 指標 外国語活動を通じて、「外国語の簡単な言葉を用いて、仲間と伝え合うことができる」と答える子どもの割合を80%以上にする。	A
取組内容③【基本的な方向5 健やかな体の育成】 校舎建設に伴う運動場の使用の制限があるため、体育科の学習の場を講堂中心に変更する。また、休み時間の運動量の確保として運動週間を学期に1回設定する。 指標 「進んで体を動かす」子どもの割合を80%以上にする。	B
取組内容④【基本的な方向5 健やかな体の育成】 手洗いうがいの大切さを理解し、健康な生活習慣の定着を図る。 指標 保健委員会を中心とした活動を行い、「丁寧な手洗いをする」子どもの割合を85%以上にする。	B
取組内容⑤【基本的な方向5 健やかな体の育成】 食事の大切さを知る。 指標 食に関する指導の全体計画に沿って、栄養指導や家庭への啓発などを行い、「自分の健康を考えて、バランスよく食べる」子どもの割合を85%以上にする。	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

①生活科・総合的な学習の時間で、話し合い活動を行うことで、他教科でも取り入れることが増えてきている。しかし、話し合いをすることの意義(何のために話し合いをするのか、話し合いを通して得られるもの)が子どもたち自身で理解できていない様子も見られる。 ②C-NETの先生と学習を進めることで、外国語活動に親しむことができています。 ③運動場で遊べる範囲が狭い中でも、学期に1回行っている運動週間を通して、外で体を動かす児童が増えた。 ④手洗い強調週間を通して、手洗いの意識を高めることができた。しかし、日々の定着までは浸透していない様子も見られる。 ⑤栄養指導や、給食週間を通して、食についての意識が高まっている。
--

後期への改善点

①低学年(自分の意見を伝えることができる)、中学年(自分の意見と友達の見解を比べることができる)、高学年(自分の意見と友達の見解を比べ、整理することができる)のような、話し合い活動の目標を決め、日々の授業で取り組んでいく。 ②来年度は、85%以上で指標の数値を上げる。日々の授業では、C-NETの先生と連携しながら取り組んでいく。 ③引き続き、年間を通して運動週間を設け、外で体を動かそうとする意識づけを行っていく。 ④日々の手洗いの意識が続くように、保健委員会を中心に計画立てて啓発していく。 ⑤栄養指導や給食委員会などの活動を通して、食についての関心を高めていく。
--

大阪市立井高野小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおり達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【学びを支える教育環境の充実】 ○ 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く〕 ○ 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準2を満たす教員の割合を昨年度(92%)より向上させる。	B
年度目標の達成に向けた取り組み内容、取り組みの進捗状況を測る指標	達成状況
取組内容①【基本的な方向6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】 1人1台端末の環境を生かし、日常的に子どもたちがICTを主体的に活用し、情報活用能力を高められるようにする。	B
指標 学期に1回年度目標の進捗状況を教職員全体で確かめ、年2回以上ICT研修を行う。	
取組内容②【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 教員の長時間勤務の解消を通じ、教員が健康に生き生きと働き、子どもたち一人一人に向き合う時間を確保できる環境の実現を目指す。	B
指標 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準2を満たす教員の割合を昨年度(92%)より向上させる。	
取組内容③【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 大学等と連携・協働した研修を行い、教員の指導力の向上を図る。	A
指標 大学等の専門機関と連携・協働した研修を年3回以上実施する。	
取組内容④【基本的な方向8 生涯学習の支援】 子どもの読書活動を推進し、子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身につけられるようにする。	B
指標 休み時間の図書館開放を毎日1回以上行い、「本を読むのが好き」と答える児童の割合を昨年度(78%)より向上させる。	
取組内容⑤【基本的な方向9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】 地域社会で子どもの健全な成長発達を促す取り組みを行う。	B
指標 「学校は、保護者やはぐくみネット等の地域の団体と連携・協働した活動を行っている。(学校の美化・登下校の見守り・学習支援・放課後支援(いきいき)・学校行事の運営等)」と答える保護者の割合を昨年度(84%)より向上させる。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
①計画通りに行い、教職員のニーズの合った有意義な研修を行うことができた。 ②教職員の意識向上により、昨年度に比べて、月の平均残業時間を1時間40分削減することができた。 ③大学から講師を招き、研究教科の総合的な学習の時間の研修に取り組み、研鑽を積むことができた。 ④図書開放だけでなく、図書館司書による読み聞かせを低学年を中心に行ったり、ワンブックワン大阪の取り組みに参加するなどして本に親しむ環境づくりを構築したが、児童の生活実態や学校での図書の時間の確保に課題がみられる。 ⑤ホームページやママモルメを活用し、学校行事の発信を積極的に行うことで、保護者の学校への関心を高めることができた。	
後期への改善点	
①来年度も、引き続き今年度と同じような形で研修会を実施し、ICTの推進を行っていく。 ②残業時間は削減されたものの、実質、持ち帰り業務によりカバーされている。引き続き、業務負担軽減について検討を重ねていく必要がある。 ③来年度も引き続き、教職員のニーズに応じた研修を実施し、教科指導の向上を図っていく。 ④現状の取り組みを見直し、児童がより本に親しめる環境づくりを再構築する必要がある。 ⑤放課後支援(いきいき)等の関係機関と連携を深め、児童が安心して生活できる環境を保障していく。	